

# 10

## 2016年3月号



CONTENTS NEXT PAGE





20 **特集**  
**オオカミよ、森に帰れ**  
絶滅から再生へ



- 22 福岡伸一 生物の絶滅は、何をもたらすか
- 24 対談  
C・W・ニコル×丸山直樹  
（作家・環境保護活動家）  
（日本オオカミ協会会長）
- 32 オオカミの本棚
- 34 **世界のオオカミたち**
- 40 オオカミを見に行こう！動物園案内
- 42 動物たちの明治維新 石川裕一
- 67 日本の絶滅危惧種 再生への道
- 82 動物園・水族館案内 希少種に会える日
- 86 日本から消えゆく野生動物完全リスト

95 能登半島のハンミョウ

2 SINRA photo & essay  
モンゴルの蒼き狼 ダシゼベグ・アマラー

47 SINRAの旅  
ニホンオオカミの聖地、秩父へ 荻原伸



100 世界遺産・小笠原 M A N A 野元学  
アオウミガメと生きる

110 新連載 吉野 信のField Report  
風幻自在

124 SINRA GRAPHIC SPECIAL  
奇跡！犬と北極熊の不思議な交流 丹葉暁弥

146 仕事もある 家もある  
田舎で暮らそう！  
北海道・上士幌町／心あみで回帰支援センター

15 村松友視 富士山の土俵入り  
17 岸本葉子 微生物と暮らす  
19 中本賢 それでも僕は座らない  
森羅万象エッセイ

116 連載 玉村豊男 編訳解説  
『ブリアールサヴァランの  
『美味礼讃』

128 SINRA SCOPE  
森羅万象新聞  
EVENT／ART／ENVIRONMENT／  
FOOD／LIVING THING／TOOL／  
MOVIE／ANIMAL／MUSIC／BOOK

144 SINRA逸品室  
154 定期購読キャンペーン  
&バックナンバーのご案内

156 SINRA STYLE  
157 SINRA CLUB通信  
158 読者プレゼント  
159 読者アンケート  
160 次号予告





# オオカミよ、森に帰れ

ニホンオオカミ絶滅から1世紀。  
生態系での役割と  
復活の是非を問う。

特定の動植物が絶滅することで  
森の生態系バランスは崩れ、荒廃していく。  
その再生には果たして何が必要なのか。  
自然派作家のCWニコル氏とオオカミ復活を  
訴える丸山直樹氏が黒姫の森で熱く語り合った。

文 秋川ゆか 写真 榎岸佐千子

1943年生まれ。東京農工大学名誉教授。シカなど野生動物の生態と保護の研究者。シカの天敵である野生のオオカミの必要性に気づき、絶滅したオオカミの復活実現のための研究と運動を開始。1993年に「日本オオカミ協会」を設立。会長に就任。編著書に「オオカミを放つ」「オオカミが日本を救う!」ともに白水社。「地球はだれのもの?」(岩波書店)など。

日本オオカミ協会会長

## 丸山直樹

日本ではオオカミと人間は  
距離を置いて共存していましたが丸山

日本のオオカミは  
氷河期に大陸から渡ってきた

**丸山** ニコルさんの「アフアンの森」をずっと訪ねたいと思っていました。森の広さはどのくらいですか。

**ニコル** 34・3ヘクタールです。もとは里山の放置林で、27年前に手を入れ始めたころは荒れ果てていたんですよ。今はフクロウも巣立つようになりました。それと隣接する国有林27ヘクタールも借り受けて整備を

進めています。

**丸山** フクロウは縄張りを持つから、環境を整備するだけでなく、広さも必要ですね。

**ニコル** アフアンの森はまだ小さな森です。トラスト募金で少しずつ広げ、50ヘクタールを当面の目標にしています。

**丸山** 今日は森とオオカミの話をしたのですが……

**ニコル** ニホンオオカミが最後に確認されたのはいつ頃ですか？

**丸山** 明治38(1905)年に奈良県東吉野村で捕獲されたのが最後。



僕は北極でオオカミに  
助けられたことがあったんですよ(ニコル)

作家・環境保護活動家

## CWニコル

1940年、英国南ウエールズ生まれ。カナダ水産調査局技官、エチオピア帝国政府野生動物保護省領区主任管理官、カナダ水産調査局淡水研究所主任技官を歴任。80年、長野県に居を定め、86年に荒れ果てた里山を購入し「アフアンの森」と名付け森の再生活動を始める。主な著書に「森をつくる」(講談社)、「アフアンの森の物語」(アートデイズ)など。

北海道のエゾオオカミも明治時代に絶滅したようです。それまではオオカミは日本全土にいました。  
**ニコル** いなくなっただけは英国はもっと早いです。イングリッドではおそらく1000年くらい前ですよ。  
**丸山** ニコルさんが野生のオオカミを初めて見たのは？

**ニコル** 17歳でカナダと北極に行った時です。それからはもう数えきれないくらい。僕はカナダと北極で、オオカミとは距離を置いた友達でした。パツフィン島に行ってカヤックで一人旅をした時も、オオカミはい

つも近くにいました。

**丸山** 距離を置いた共存は理想ですよね。

**ニコル** オオカミに助けてもらったこともあるんですよ。イヌイットの3兄弟と1カ月間のトナカイ狩りに

出た時は、人間と一緒にオオカミも移動していました。トナカイの肉を置いておくとサーツと来て食べる。ある時、天気の悪化で移動できず、紅茶しか口にするものがなかった日がありました。するとオオカミがトナカイの前脚をくわえてきてテントの前に置いたんです。もちろんありがたく食べました。

**丸山** 日本でもオオカミがシカをくれたというような話が残っています。私は作り話だと思っていましたが、本当にあるんですね。犬のことはオオカミだったのも理解でき

ますね。

**ニコル** 僕のフィールドはほとんど北極ですが、日本のオオカミは世界のどこのオオカミに近いですか？

**丸山** エゾオオカミのDNAを岐阜大学の石黒直隆教授が分析したんです。どこだと思えますか？ カナダのユーコンだったんですよ。

**ニコル** 本当!? なんて？

**丸山** オオカミは大人になると独立して旅に出ますね。その距離は数百キロ以上。ドイツで放した一頭が半年後に1500キロ離れたベラルーシにいた例もあります。最後の氷河



期、オオカミは凍ったペーリング海を通って大陸を自由に行き来していた。日本にカナダの遺伝子が残っているもおかしくないです。

**ニコル** 人間も3000年前にユーロアジアから移動した時、犬も一緒でした。今もソリ犬は完璧にアジアの犬です。しつぽが巻いています。

**丸山** 石黒教授は昨年、ニホンオオカミのDNAも分析しました。これはどこに近いかは特定できなかったが、大陸のオオカミであることは間違いない。エゾオオカミより古く13万年以上前に来たようです。

増えすぎたシカを減らすにはオオカミかハンターか

**ニコル** 今、イタリアではいなくなつたオオカミが戻ってきているようです。

**丸山** イタリアではアブルツォ山に残っていたんです。100頭以下になつたのが保護によって増えてフランスに入り、スイスのジュラ山地にも入っていますよ。

**ニコル** 僕が子どもの時、ヨーロッパにはオオカミの怖ろしい伝説がいっぱいありました。でもカナダに行つたら、オオカミは全く怖いものじゃない。街にいる友達。

**丸山** 日本人も昔はそんなに怖がついていませんでした。18世紀半ばに狂

犬病が侵入してからです、でも当時は犬の数が多く、外を自由に歩いている。それがどんどん狂犬病になつたのではないかな。オオカミは縄張りを持つので、他の群れに蔓延することは少ないでしょう。

**ニコル** エチオピアで狂犬病が出た時、人を襲つたのは犬でした。

**丸山** アメリカの東側でも今、狂犬病が流行っています。これはアライグマからです。

**ニコル** 日本人は外来種に敏感です。ハクビシンやキョン、タイワリス、アライグマとか。英国はそれほどでもなくて、たとえばアナウサギはローマ時代に入り、1000年前にも食べるために再度導入しまし

## 家族で群れをつくりシカを狩るオオカミ

オオカミは群れで行動する生き物だ。通常、雌雄の繁殖ペアとその仔や血縁の4〜10頭で1パックを構成する。群れ同士が近づくことはない。縄張りや食物の量や個体数によるが60〜1000平方キロにもなるという。成熟したオオカミは群れを離れ、配偶者を見つけて新たなパックをつくる。生息地における頂点捕食者であり、野生のヤギなどはシカ、イノシシ、野生のヤギなど。ノウサギ、タヌキ、アナグマ、キツネ、アライグマなども個体数が多ければ捕食の対象になる。

## シカの食害を止めるのは捕食者であるオオカミです(丸山)

シカ肉は本当においしい。もつと日本でも食べてください(ニコル)



ニコル氏が27年前に購入して以来、手を入れ続ける長野県飯綱山の森。背後の池も掘つた

た。

**丸山** ニホンジカも入っていますね。**ニコル** それは明治時代。おいしいし、狩りがおもしろいからです。今、英国では各地でドイツからイノシシを入れていきます。スコットランドではビーバーも導入しています。

**丸山** スコットランドはアカシカの食害に困り、オオカミ再導入の声も出ています。**ニコル** でも羊飼いは皆、当然反対しますよ。

**丸山** 日本は羊飼いがいないけれど、イギリスやフランスは多いですから。私は3年前にイギリスに行きましたが、あちらは森が減って大変ですね。**ニコル** 僕が生まれた南ウエールズは森林面積が5%まで減りました。それが60%に増えたんです。問題は林野庁が針葉樹のカラマツとトウヒばかり植林したことです。しかも10

年ほど前からカラマツの病気が入つた。それでどんどん伐採しています。**丸山** ブナは羊を放牧する地域にまだありますね。ヨーロッパで唯一ブラウンベアが残っているスペインのカンタベリー山脈もブナの森です。羊やシカはブナの樹皮は厚くてはげないんです。シカが好むナラはすいぶん減りました。イギリスでもシカの食害は深刻ですが、日本と同じでハンターだけでは獲りきれない。厳しい状況です。

**ニコル** 本当に厳しい。アフアの森の姉妹森である南ウエールズのアファン国立公園は、隣に貴族が所有する森があります。そこでファロージカがものすごく増えた。レンジャー1人が3カ月で300頭獲りました。**丸山** それはすごい数ですね。シカが突出して増えると、森林の生態系が大きく崩れます。笹藪が丸坊主になると、まず困るのは笹の中で営巣

するウグイスやビンズイ(セキレイ科)などの鳥です。そこからどんどん、種の多様性が失われていきます。なぜシカだけが増えるのか。捕食者であるオオカミがいらないからです。それで私は日本でも、アメリカのイエローストーン国立公園のようにオオカミを再導入すべきと考えるわけですが。

**ニコル** 保護はわかりませんが再導入はどうなのかな。小さな島なら人も納得するかもしれない。それに日本では獲つたシカやイノシシを捨てているでしょう? 長野県やいくつかの自治体がジビエとして広めようとしています。僕はもつと食べてもらいたい。本当においしいですから。そうやっていいレベルで減っていくのが望ましいですよ。

**丸山** いいレベルというのが難しいんです。自然生態系から考えるとパランスがとれるのは1平方キロ当た